

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月11日
【四半期会計期間】	第84期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	株式会社G S Iクレオス
【英訳名】	GSI Creos Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 中島 浩二
【本店の所在の場所】	東京都千代田区九段南二丁目3番1号
【電話番号】	東京（5211）1828
【事務連絡者氏名】	経理部長 松尾 慶彰
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区九段南二丁目3番1号
【電話番号】	東京（5211）1828
【事務連絡者氏名】	経理部長 松尾 慶彰
【縦覧に供する場所】	株式会社G S Iクレオス大阪支店 （大阪市中央区大手前一丁目7番31号（OMMビル）） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第83期 第2四半期 連結累計期間	第84期 第2四半期 連結累計期間	第83期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	61,453	76,212	130,686
経常利益 (百万円)	758	675	1,290
四半期(当期)純利益 (百万円)	618	470	916
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	327	1,168	1,440
純資産額 (百万円)	11,897	14,036	13,000
総資産額 (百万円)	60,112	67,581	59,906
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	9.61	7.32	14.24
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	19.71	20.70	21.62
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	187	433	711
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	329	39	514
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	925	117	802
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	7,430	7,928	7,970

回次	第83期 第2四半期 連結会計期間	第84期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	5.06	6.41

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、現政権の政策により景気は緩やかに回復しつつあるものの、欧州景気の回復遅れや新興国経済の減速など海外景気に下振れ懸念があることから、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況下、当第2四半期連結累計期間の業績は、引き続き海外売上高が増加しましたので、売上高は前年同期比14,758百万円、24.0%増収の76,212百万円となりました。売上総利益は、前年同期比384百万円、5.8%増益の6,960百万円となり、営業利益は、前年同期比79百万円、9.6%増益の915百万円となりました。経常利益は、為替差損の発生など営業外収支が悪化したことから、前年同期比82百万円、10.9%減益の675百万円となり、四半期純利益は前年同期比147百万円、23.9%減益の470百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

繊維関連事業

- ・機能性の高いインナー用の原糸および生地は、取扱数量が大幅に増加しました。企画提案型の婦人ファンデーションは、円安等による生産コストの上昇により採算が悪化しました。インナー製品のOEM取引は、同様の採算悪化に加えて販売数量も減少し、量販店向けの実用衣料は、紳士肌着の販売が落ち込みました。また、雑貨の小売展開は、販売が伸び悩み苦戦しました。
- ・アウター用の生地輸出は、欧米やアジア向けが増加するとともに、円安により採算が好転しました。また、アウター製品のOEM取引もレディースやアウトドア向けが伸長しました。

以上の結果、当事業全体の売上高は前年同期比13,117百万円、26.2%増収の63,226百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比255百万円、44.7%増益の825百万円となりました。

工業製品関連事業

- ・塗料・樹脂の硬化用添加剤は、欧米やアジア向けの輸出が増加しました。機械は、大型複合材成形機の取扱いがあり増加しました。一方、フィルムは、飲料・食品用包材の需要低下により高機能収縮フィルムを中心に減少しました。半導体の部材や理化学機器、化粧品原料などの輸入品は、円安の影響により利益率が低下しました。
- ・ホビー関連商品は、塗装用器具が減少しました。

以上の結果、当事業全体の売上高は前年同期比1,641百万円、14.5%増収の12,986百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比163百万円、34.7%減益の307百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、売上債権の増加などにより、前期末比7,675百万円増加の67,581百万円となりました。

負債は、仕入債務の増加などにより、前期末比6,638百万円増加の53,545百万円となりました。

純資産は、四半期純利益による株主資本の増加およびその他の包括利益累計額の増加などにより前期末比1,036百万円増加の14,036百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、売上債権の増加など営業活動による支出や、出資金の払込など投資活動による支出などの要因に、換算差額169百万円、新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額143百万円を加算した結果、全体では前期末に比べ41百万円減少の7,928百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは433百万円の減少(前年同期比621百万円の支出の増加)となりました。主な要因は売上債権の増加によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは39百万円の減少(前年同期比290百万円の収入の増加)となりました。主な要因は出資金の払込による支出によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは117百万円の増加(前年同期比1,042百万円の収入の増加)となりました。主な要因は借入による収入によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発活動について、特記すべき事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成25年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	64,649,715	64,649,715	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株であります。
計	64,649,715	64,649,715	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	64,649	-	7,186	-	913

(6)【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
グンゼ株式会社	京都府綾部市青野膳所1番地	9,321	14.42
株式会社みずほ銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	3,182	4.92
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	3,172	4.91
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	2,520	3.90
東レ株式会社	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号	1,982	3.07
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番10号	1,870	2.89
日本興亜損害保険株式会社	東京都千代田区霞が関三丁目7番3号	1,119	1.73
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	1,046	1.62
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町一丁目4	906	1.40
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	822	1.27
計	-	25,943	40.13

(注) 所有株式数の千株未満は切り捨てて表示しております。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 404,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 63,777,000	63,777	-
単元未満株式	普通株式 468,715	-	-
発行済株式総数	64,649,715	-	-
総株主の議決権	-	63,777	-

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権2個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式311株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社G S I クレオス	東京都千代田区九段南二丁目3番1号	404,000	-	404,000	0.62
計	-	404,000	-	404,000	0.62

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
代表取締役社長	-	深瀬佳洋	平成25年9月30日

なお、平成25年10月1日付けの役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名	旧役名	氏名	異動年月日
代表取締役社長	代表取締役専務取締役	中島浩二	平成25年10月1日

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人 保森会計事務所による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,970	7,928
受取手形及び売掛金	^{2, 3} 30,281	^{2, 3} 37,660
商品	9,206	9,438
未着商品	33	34
その他	1,308	1,370
貸倒引当金	516	429
流動資産合計	48,283	56,002
固定資産		
有形固定資産	5,446	5,423
無形固定資産	553	531
投資その他の資産	⁴ 5,624	⁴ 5,624
固定資産合計	11,623	11,578
資産合計	59,906	67,581
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	³ 21,923	³ 28,685
短期借入金	16,300	16,903
1年内返済予定の長期借入金	1,357	1,486
未払法人税等	300	259
引当金	403	390
その他	2,442	2,007
流動負債合計	42,727	49,732
固定負債		
長期借入金	2,865	2,564
退職給付引当金	950	868
その他	363	380
固定負債合計	4,178	3,812
負債合計	46,906	53,545
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,186	7,186
資本剰余金	908	895
利益剰余金	5,873	6,228
自己株式	65	69
株主資本合計	13,903	14,240
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	345	127
繰延ヘッジ損益	102	33
為替換算調整勘定	504	93
その他の包括利益累計額合計	952	254
少数株主持分	49	50
純資産合計	13,000	14,036

負債純資産合計	59,906	67,581
---------	--------	--------

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	61,453	76,212
売上原価	54,877	69,251
売上総利益	6,575	6,960
販売費及び一般管理費	¹ 5,739	¹ 6,044
営業利益	835	915
営業外収益		
受取利息	69	10
受取配当金	42	48
その他	88	48
営業外収益合計	200	106
営業外費用		
支払利息	202	169
為替差損	12	121
その他	64	55
営業外費用合計	278	346
経常利益	758	675
特別利益		
固定資産売却益	19	-
投資有価証券売却益	-	3
特別利益合計	19	3
特別損失		
固定資産除却損	0	11
投資有価証券評価損	-	44
ゴルフ会員権評価損	-	8
特別損失合計	0	64
税金等調整前四半期純利益	776	614
法人税、住民税及び事業税	166	137
法人税等調整額	8	5
法人税等合計	157	143
少数株主損益調整前四半期純利益	618	470
少数株主利益	0	0
四半期純利益	618	470

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	618	470
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	351	218
繰延ヘッジ損益	9	68
為替換算調整勘定	51	410
その他の包括利益合計	290	697
四半期包括利益	327	1,168
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	327	1,168
少数株主に係る四半期包括利益	0	0

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	776	614
減価償却費	129	137
のれん償却額	0	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	20	30
退職給付引当金の増減額(は減少)	68	81
事業撤退特別損失引当金の増減額(は減少)	43	-
受取利息及び受取配当金	111	58
支払利息	202	169
為替差損益(は益)	2	0
有形固定資産売却損益(は益)	19	-
有形固定資産除却損	0	11
投資有価証券売却損益(は益)	-	3
投資有価証券評価損益(は益)	-	44
ゴルフ会員権評価損	-	8
売上債権の増減額(は増加)	3,219	5,562
たな卸資産の増減額(は増加)	1	49
その他の資産の増減額(は増加)	180	81
仕入債務の増減額(は減少)	2,868	4,950
その他の負債の増減額(は減少)	133	532
その他	32	70
小計	417	130
利息及び配当金の受取額	51	59
利息の支払額	197	169
法人税等の支払額	84	192
営業活動によるキャッシュ・フロー	187	433
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	75	34
有形固定資産の売却による収入	19	-
無形固定資産の売却による収入	140	-
投資有価証券の取得による支出	136	11
投資有価証券の売却による収入	5	74
出資金の払込による支出	94	82
貸付けによる支出	237	57
貸付金の回収による収入	57	63
その他	9	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	329	39
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	220	486
長期借入れによる収入	132	724
長期借入金の返済による支出	653	896
配当金の支払額	128	125
少数株主への配当金の支払額	0	0
その他	54	71
財務活動によるキャッシュ・フロー	925	117
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	169
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,055	185
現金及び現金同等物の期首残高	8,435	7,970

新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	50	143
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 7,430	¹ 7,928

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、GSI Europe-Import+Export GmbH は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、GSI Creos Brasil Ltda. は重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

一部連結子会社については見積実効税率により税金費用を算定しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の借入金等に対し、保証しております。(円換算は第2四半期決算日または決算日の為替相場によっております。)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
GSI (Shenzhen) Ltd.	288百万円	GSI (Shenzhen) Ltd.	290百万円
GSI Europe-Import+Export GmbH	130	GSI Creos (Beijing) Co.,Ltd.	108
GSI Creos (Beijing) Co.,Ltd.	103	日神工業株式会社	40
日神工業株式会社	41		
計	562	計	439

2 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形割引高	153百万円	139百万円

3 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形	598百万円	-
支払手形	491	-

4 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
投資その他の資産	437百万円	501百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
物流費	882百万円	958百万円
販売諸掛	995	987
従業員給与及び賞与	1,068	1,186
賞与引当金繰入額	343	352
退職給付費用	59	48
その他	2,390	2,510
計	5,739	6,044

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金	7,430百万円	7,928百万円
現金及び現金同等物	7,430	7,928

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	128	2.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	128	2.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	繊維関連事業	工業製品 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	50,108	11,344	61,453	-	61,453
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	55	55	(55)	-
計	50,108	11,400	61,509	(55)	61,453
セグメント利益	570	471	1,041	(205)	835

(注) 1 セグメント利益の調整額 205百万円には、セグメント間取引消去55百万円、各報告セグメントに配分しない全社費用150百万円が含まれております。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	繊維関連事業	工業製品 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	63,226	12,986	76,212	-	76,212
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	67	67	(67)	-
計	63,226	13,054	76,280	(67)	76,212
セグメント利益	825	307	1,133	(217)	915

(注) 1 セグメント利益の調整額 217百万円には、セグメント間取引消去67百万円、各報告セグメントに配分しない全社費用149百万円が含まれております。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品関係は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

有価証券関係は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引関係は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。また、ヘッジ会計を適用しておりますので、注記の対象から除いております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	9円61銭	7円32銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	618	470
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	618	470
普通株式の期中平均株式数(千株)	64,347	64,254

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月7日

株式会社G S Iクレオス
取締役会御中

監査法人 保森会計事務所

代表社員 公認会計士 大 東 幸 司 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 渡 部 逸 雄 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社G S Iクレオスの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社G S Iクレオス及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。